

第 5 回品川区長期基本計画策定委員会 議事要旨

日時：令和元年 7 月 19 日（金） 15:00～17:00
場所：品川区役所 議会棟 6 階第 1 委員会室

議事次第

1. 開会
2. 新委員委嘱
3. 委員長挨拶

■委員長

今までいろいろとご審議いただきましたけれども、この後、今回と次回とその次につきましては、前回体系図についてご議論いただき、大きくくりをして、三つの分野、「地域」と「人」と「安全」を分けるということで当面進んでいくということになったわけですが、今回は「地域」で、次回は「人」で、次が「安全」ということで、3回にわたって分野別にご議論いただくということになりますので、どうぞよろしく申し上げます。

なお、今回、参与の方で初めて出席される方がいらっしゃるのでは、ご紹介させていただきます。

■参与

品川区の第 3 期地域福祉計画の策定委員をさせていただきます。地域福祉が専門です。次回、「人」の部分ではかなり関係するところが出てくるかと思っておりますけれども、今日のテーマも、高齢者、障害者、子どもたちとつながる大事なところかと思っておりますので、皆様のご意見をしっかり聞かせていただきながら考えていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

■委員長

どうもありがとうございました。どうぞよろしく申し上げます。

前回の議事要旨の確認をさせていただきます。本委員会の公開基準は、第 1 回の策定委員会でご承認をいただきました。そのうち、会議録については、要旨を区のホームページに掲載するという事になっております。氏名については公開しません。今回から参加いただく委員と参与の皆様は、どうぞご承知おきいただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。第 4 回の委員会の議事要旨につきまして、資料 1 として配付されております。資料は事前に配付されておりましたので、内容についてはご覧いただいていると思っておりますけれども、いかがでしょうか。

■委員長

それでは、第4回の議事要旨については、確認をさせていただきましたので、後日区のホームページで公開するということになります。

4. 素案（たたき台）について

*事務局より資料3について説明

■委員長

ありがとうございました。三つの分野、「地域」、「人」、「安全」のうち、本日は「地域」の分野について全体説明がありました。素案たたき台の表紙をご覧になると分かるように、区民活動、生涯学習・スポーツ、伝統・文化、産業、都市型観光、都市景観、水とみどりということで、今日は七つの項目について審議をするということになります。

議論の進め方ですが、表紙をめくっていただいた1ページ、左側は「地域」の最初の四つの政策の柱、それから右側は三つの政策の柱が記載されています。便宜的な分け方ですが、審議の進め方として、前半ではこの1ページの左側の区民活動、生涯学習・スポーツ、伝統・文化、産業、この四つの柱について一括してご議論いただいて、後半で右側の都市型観光、都市景観、水とみどり、この三つの柱についてご議論いただくという形で、便宜的に分けてご意見をいただきたく思いますので、よろしくお願いします。それぞれ内容の過不足ですとか、目指す姿や現状と課題、それから主な取り組み等の表現、文章、その他並び順等含めて、ご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いします。

なお、ご議論にあたっては、最初にこの策定委員会の委員の皆様からのご意見を中心として伺って、その後参与の皆様からご助言をいただく時間を設けさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

それではまず、区民活動、生涯学習・スポーツ、伝統・文化、産業、この四つの政策の柱の部分につきまして、委員の皆様からご意見、ご質問等あればご発言をお願いしたいと思います。

■委員

三つの大きい柱、「地域」、「人」、「安全」というくくり、大変良いと思っているところですが、具体的な施策レベルになると、かなり縦割りの印象が非常に強いということを感じました。そこで提案ですが、区民活動のところと生涯学習のところ、意見を述べたいと思います。

これから福祉の分野は、後で参与の先生からもあるかもしれませんが、地域、助け合いが非常に重要なテーマになってきています。今この区民活動で書いてあるのは、役所の地域振興部の目で見ていると思います。今、地域センターにホットステーションが置かれているというような具体的な施策が始まっているわけなので、そのような地域における助け合い活動を育てていくという視点を、ぜひこの区民活動の中に盛り込んでいただき

たいと思います。町会・自治会の方々も非常に大事だと思いますが、その方々も助け合い活動の一つの担い手になると思うわけです。ですから、例えば10年後の姿としては、一人暮らし高齢者等が増えてくる中で、伴走型の支援と住民同士の支え合い活動が生まれているというような状態を目指してってもらいたいというようなことで書き加えることによって、ここの「地域」の部分に横の広がりが出てくるのではないかと思います。そういう視点から、体系図の中に、青い色で印刷してあるところの、「地域」の後ににぎわい・活力とあるのですが、にぎわい・活力であると、多分今までの長期計画になってしまうと思います。ここで、にぎわい・活力・助け合いと入れてもらったかどうかというのが一点です。

それから、生涯学習・スポーツのところでは、右側のページの2番のところの最初の丸のところ、学習成果を地域に還元することで新しいつながりが生まれるように、ということ、これはとても大事なことだと思います。私も毎回、英語の文法でいうと、一人称から三人称へという話をしたことがあると思いますが、自分で学習するというのも大事なのですけれども、そのことを学ぶだけではなく、地域の人のために活かしてもらいたいと思います。例えば、シルバー大学の卒業条件として、地域デビューの訓練をして、そういうイベントに参加して、実際の地域活動のほうに登録してもらおうような仕組みを考えるなどのようなことを、具体的なレベルになりますけれども、検討いただければと思います。これも横串を通すという視点から申し上げるということです。

■委員

「地域」のところで、具体的な施策のところ、企業・大学等との協働の推進というところがあると思うのですが、その下に前回の計画体系案で、区民活動の施策例にあった地域連携の仕組みづくりというのがここに入っていないのですが、地域連携の仕組みづくりはキーワードとしてはかなり重要ではないかと思っています。

私は、高齢者や障害者の支援活動を中心に活動していますが、若い世代の方々との交流がなかなかうまくいかないということを問題に掲げていて、品川コミュニティ・スクールがあるので、そこと連携して、イベントを協働で行うと、この問題も解決になるのではないかと考えています。子どもたちや大人や高齢者、障害者の方が集まって、いろいろ多世代交流ができるのではないかと思います。いろいろなイベントが考えられると思いますが、例えば、効果的と思われるのは、今年の1月19日に行った品川コミュニティ・スクールフェスタというものです。これは品川区全体のコミュニティ・スクールの展示会のようなものなのですが、地域センター単位以下という小さめにやって、地域密着でやると、社会貢献団体や近隣の企業の方が参加しやすくなるのではないかと思いますので、多世代交流ができて、地域の安心・安全も図れるのではないかと思います。地域内のいろいろな団体が連携することで、いろいろなメリットが出るのではないかと思います。

このようなイベントを行う地域を支援するための中間支援組織のようなものをつくるなど、地域を応援する地域連携の仕組みづくりが必要ではないかと思っています。

■委員

産業の部分です。いろいろ書いてあって、現状と課題のところは AI、IoT と難しい話が出てくるわけですが、これは横串的にいろいろなところに出てきますが、右側を見ていただくと、地域産業における創業を支援するというところで、SHIP という、いろいろある施設がありますが、ここでは創業支援ということですが、もともとこれは交流施設ですので、交流が非常に大事です。それから AI、IoT といって有名なベンダーが地元に来て、先進的な仕事をするだけでは、あまり何も地域的にはそれほど効果的な話ではないということを含めると、ここの3番の中小企業の地域産業のチャレンジというところで、既存の企業が IT を使える、AI など新しいものを使うような仕組みづくり、従って例えば新しく出てきた五反田バレーの人たちと既存の地域にある会社の人たちの交流を進めるべきであって、そのためには仲良くしなさいというだけでは無理なので、例えば一緒に提携した事業に対しての支援、あるいはもう一つは実証実験、地元企業が参加できるような実証実験の場を一つ例えばつくることです。どのようなケースでも結構です。例えば、広町の再開発が計画されるのはそうでありまして、あるいは商店街で先駆的な取り組みをしてもいいかと思います。そのような Society5.0 といいますか、新しい技術の展開をするもとの地場の産業と、AI の新しい取り組みをする実証実験の場が設けられないかという提案です。

■委員

区民活動における町会・自治会の位置付けですが、今でも町会からは、さまざまな役割や多くの仕事を区役所から頼まれていて、率直に言えば今でも大変だが、これ以上は勘弁してほしいという声を伺っています。こうした中、素案のたたき台では、町会・自治会を地域課題や社会的課題に対し、解決に向けて活発な活動を行うことや、地域の課題やニーズに対して住民自らが責任感を持って解決できるようにと明記するなど、今まで以上の役割や責任、仕事、助け合いを町会・自治会に求めています。これも実態と合わないと思いますし、区役所のお手伝いはしても、責任までもは求めすぎで、こうした素案は改めるべきだと思います。むしろ、地域課題や社会的課題の解決へ、区役所の役割こそ強めるべきで、町会・自治会については、その自主性を尊重する支援に徹するべきだと思います。

また、再開発事業による新しい住民の転入が、地域の希薄化を生んでいることをこの素案では指摘していますが、再開発マンションで地域を壊して、その後解決する手立てを打つのではなく、地域を壊す再開発事業そのものを見直し、中止をすることが必要だと思います。

次にスポーツですが、たびたびこの場でも話が挙がっていますが、施設が足りないことへの解決について、素案では効率的な利用の促進としか示されておりません。もう十分に

工夫して施設を利用していますが、問題は施設が足りないということです。スポーツ施設の整備促進を明記すべきだと思います。また、前回は指摘しましたが、障害者スポーツについて、素案では、障害がある方との交流や触れられる環境の整備との位置付けですが、これでは不十分です。障害がある方にとって、スポーツを楽しむことのできる施設や、施設内の環境整備とともに、障害があってもスポーツをやってみようという動機付けも重要ですので、その位置付けを求めたいと思います。

最後に産業についてですけれども、とりわけ障害者雇用の促進について、環境整備や支援策を位置付けるべきだと思います。区役所をはじめ、民間企業における障害者雇用を実現するための支援計画や支援内容を位置付ける必要があると思います。障害の有無にかかわらず、誰もがいきいきと働く社会に貢献できることを産業政策としてしっかりと位置付けてほしいと思います。また、建設業における安定した雇用や担い手不足の解消、公共事業の品質確保、賃金の下限を設定した公契約条例の制定や、建設組合の参加を位置付けた策定の審査を求めていきたいと思います。

■委員

2点ほど気付いたことがあってお話しさせていただければと思います。区民活動のところを読ませていただいて、10年後の目指す姿を実現するための主な取り組みのところ、先ほど最初に聞きましたお話があったのですが、1番の丸の3番目に、地域住民の親睦やつながりを深める活動をはじめ、平時の防災、災害や子どもというのがやはり出ていますので、ここはやはりさまざまな部分で福祉の分野も少し入っていくところ、やはり事業の中で高齢者等を含めた活動が今広がっているのが事実ですので、少し触れていただきたいというのが一点です。

それから3ページで、生涯学習とスポーツというところで、3番の生涯学習・スポーツの環境を充実するというところで、一つ目の丸の中で、今ある既存の施設の改修等を計画的に行うというのがあるが、その下に地域のにぎわいや産業活性化にもつながるというところで、今後今までよりもこれから先、「みる」というスポーツに限定されて書かれているのですが、全体的には10年後「みる」も「する」もやはりしっかりと整備されていっていただきたいので、ここで逆に「みる」だけを切り取るのではなくて、「する、みる、スポーツ」というような切り口でやっていただいたほうが、スポーツ全体というようなイメージがあるので、そのような考え方はないでしょうか、というところで気付いた点です。

■委員

全体的な話からさせていただくと、非常に総花的であって、せっかくこの具体的な施策というところがあるので、もう少し突っ込んで書いていただきたいと思いました。その中で、特に思ったのは、区民活動でいくと、今非常にどこの町会でも大変なのは、ここに書いてあるとおり、新しい住民の方の転入が増えているということであって、その方々を例

えば町会なりにご参加いただく、それにはどうしたらいいかということは、各町会でもさまざまなことをされていると思っています。うまくやられているところもあれば、なかなかかというところもあります。そうなったときに、その活動を支援していくということは、口で言うのは簡単だけれども、ではそういうことを、例えばイベント的なものをするといったときに、一回支援しますが、翌年それを継続的にしていくときに、翌年どうなってしまふのかという現実的なお金の話もあって、なかなかそれが継続できなかつたりすることもあります。それが継続できるようにするには、やはり3年から5年ぐらいの継続的な支援が私は必要なのだらうと思っています。そういうことも具体的に、後で継続的というのは一部出てきますが、こういう区民活動というのはやはり時間もかかり、こういうことをぜひもう少し書いていただきたいです。先ほどの子どもたちの健全育成というのも出てくるのであれば、こういうことをやっている商店街や町会で一緒になってやっているところがあります。そういうのはご存じだと思いますが、こういうところを書いていただくなら、もっとそういうところをやっていく。町会・自治会以外の新住民の方の部分も、どこか項目を取り上げてもらって、ここにはそういう人たちをいかにどうやって取り組んでいくのか、それはイベント的なものではないと私は思っていますが、その辺のところは書いていただきたいと思っています。

それから生涯学習とスポーツですが、これを見ていくと、もう少し児童生徒というか子どもたちの部分を育てていくことを考えていただきたいです。そこには教育的なものも入ってくるのですが、例えば部活動、私は野球をやっているのですが、野球を例にとると、これはよく言うのですが、10年間経ってきたら、中学の部活は野球の場合であると全国レベルの話ですが、10年前を1とすると今は0.55まで減ってきている、半減しているというのが現実です。しかし、品川の場合は子どもたちも増えているわけで、それは少子化とはまた少し違う意味があると思っていますので、今野球をやっている子どもたちが現実的に減っている、やはり児童生徒で子どもは増えているけれども、スポーツに親しむ子どもたちは減っているというのが全体的な部分があるのだと思っています。それをこれから復活させていこうというには、やはり幼児の部分から含めて、相当力を入れていかなかつたら、せつかくここで生涯学習がいいとしても、スポーツをもっと親しめる人を増やしていくのであれば、そこを中心的に書いていく、育てていくということが、必ず私はあると思っていますので、それも書き込んでほしいと思っています。

それから伝統・文化ですが、これは重要無形文化財の江戸の里神楽は書いていただいて、これは品川区の場合の一つ、東京都も一つ、区の指定は、分けたりすれば四つか五つぐらいはあるけれども、細かく分ければそのようになるけれども、現実問題これを継承していかせるというのは、非常にどこも大変苦しんでいると思っています。これは本当にいろいろな形で支援が必要で、ここの部分も、多分これはこのようなことを言うとあれですが、もっと自分たちで努力しろというのものもあるかもしれないけれども、年間5万円では無理があります。そういうのこそ、継続的にこれはもっと継承してくれというのであれば、もう

少し言葉的にも支援をするということ、具体的な施策を書いていただくのであれば、その辺のところはもう少し強く書いてほしいです。総花的であると、これはどうなるかわかりません。継承の支援で5万円では、と思う部分も現実あります。しかし、必ず継承していこうとやっているのであれば、この辺ももう少し具体的に強く書いていただきたいと思えます。よろしくお願いします。

■委員

私は地域の中心になるのは商店街でなければいけないと思っています。やはり商店街が元気であるからこそ、地域が盛り上がるというように思っています。今、区のほうで22～23年前から、商店街の販売促進に対する助成金、にぎわい助成というものをスタートさせました。なぜこの事業をスタートさせたかというのは、品川区内に105の商店街があるのですが、そのうちの69が区商連に加盟しています。その区商連に加盟しているこの商店街の中の半数、約30以上の商店街が生き残る、また元気でなければ、品川区民が生活していく上に成り立たないというような形で、その30商店街以上が元気で、またその地域に暮らしていて、歩いていくとすぐ商店街があるというような便利性というようなもので支援していただいたわけですね。それは今続けていて、現在もやっているわけですね。ただ、商店街が今非常に高齢化になっていくというような形、それともう一つは商店街の構造自体、業種業態が非常に偏ってきたということで、飲食店はもちろんですが、マッサージや処方箋の店のようなところというものが非常に多くなったということで、物販店がどんどんなくなっていきます。これも近所にコンビニができた、何があるというような形態で、だんだん淘汰されているのかというようなことがあります。

ただ、その中で、イベントを商店街がきちんと行っていかなければいけません。このイベントというのが、私は地域の中の防災訓練だというように思っています。ですから、1カ所の場所に地域の皆さんが集まるというようなこのイベントに対して、やはり地域の皆さんも一緒になって手伝ってもらって、企画をしていくというような形態を取っていかねば、これからのイベントが続けていけなくなってしまいます。それで、では助成してくれるからといって、その助成金で業者に頼んで行うという、これはもうただのイベントといってもにぎやか、パンダを連れてくるようなものだというような形になって、地域のためには何にもなりません。やはり、地域の商店街のおやじ、おかみさん、また地域の人たちと一緒に汗をかいて、それで盛り上げて子どもたちが喜ぶ、このまちに住んでいて良かったというような形になってくるかと思えますので、その辺をこの区民活動、それから産業のほうでも入れていただければと思います。

それからもう一つ、防犯カメラの問題があります。これのほうは、今町会と一緒にやってやれば助成金が出るのですが、町会と商店街との助成金のバランスが違います。町会のほうが率が良いというような形で、12分の11ということです。商店街がやると6分の5ということですので、この辺の差も、商店街も町会ですし、商店街が自腹で払っているわけ

ですから、この辺の差というのもなくしていただきたいと思います。

■委員長

他にございますか。良ければここまでで、参与の先生方で何かこれは言っておきたいということがありましたら承りたいと思います。

■参与

コミュニティ政策を研究しているので、ここで一言言わせていただきたいと思います。

まず一つ目ですが、先ほどの委員がおっしゃったことは全面的に賛成というか、いろいろな意味で賛成なのですが、一つは前回も少し縦割りのつくられていて、相互連関が見えないといったご意見があつて、これは率直なご感想だと思います。ただ、計画時点でこのように全てを全部言い切ることはできませんので、こうやって仕分けして組んでいくということはある程度仕方のないことだと思います。具体的なところになりますと、この項目はこちらと関係しているなど、そういうことを少し留意するような見せ方というか、計画の考え方にさせていただいたほうが良いかと感じました。

一つは、昨今地域課題ということをよくいわれますが、地域課題はいろいろな課題があつて、特に今世紀になってから、かなり福祉的な課題が多いです。ですから、町会・自治会の自主的な取り組みも多くなっています。そうすると、福祉分野と関係してきます。それから、最近の地域課題はやや専門性の高いものが増えてるように感じています。例えば子ども食堂や学習支援など、町会・自治会でやられているものは品川にもあると思います。そういう例が増えてきて、そうすると、子どもを傷つけないためにはどういうことが必要かなど、そういうことについて行政や専門機関が助言をするなど、そういった関わりが必要になると思います。先ほど、地域に責任あつたものをたくさん押し付けるのはというご発言がありましたけれども、地域も活動しなければならぬと思いますが、やはりどこまでがボランティアであつて、どこからが専門機関が関わるようにするか、どこからが職業的なワーカーの必要があるのかなど、その辺の仕分けはきっちり考えなくては行かなくて、そういう意味でも、地域課題の解決や町会・自治会の問題、地域コミュニティの問題は、さまざまな分野と連関しているというように思いますので、計画書の具体的な文章に、そういうことを留意したほうが良いのではないかと思います。

さらに、福祉だけではなく生涯学習も、これも先ほどの委員がおっしゃったとおりですけれども、もちろん生涯学習で学ぶということそれ自体も意義があると思います。一国の文化水準が上がりますので、意義があると思いますけれども、さらに学んだことを地域活動に活かしていただくということが必要かと思います。割と他の自治体を見ていくにしても、そのような生涯学習の取り組みが増えてきたと思います。ですから、生涯学習のところもそういう視点を活かしてほしいと思います。一応書いていますが、学習成果を活かす仕組みづくりといったところが書かれていて、その辺も少し具体化していくと良いかと思

います。

それから、今の話し合いの齟齬なのですが、忘れないうちに言っておくと、例えば都市型観光についても、品川でどういう取り組みがあるのか私も存じませんが、例えばガイドボランティアをいろいろな自治体でやられると思います。これからオリンピック、パラリンピックを契機に、少し品川でもガイドボランティアの市民的な基盤を築く、ガイドボランティアの取り組みをされてはどうかと思います。これもやはりガイドの資格など、そういうことを学ぶ必要がまずあります。生涯学習で学んで、それをガイドボランティアとして活かしていくといったようなことが考えられます。

いろいろ関係しているの、相互の連関性を、具体的なところになりますと付けていただくほうが良いかと思いました。これが縦割りのではなく、相互連関を重視した考え方で。これが言いたいことの1点目になります。

言いたいことの2点目は、町会・自治会のことですが、2ページの現状と課題の最初に書いてあります品川区町会および自治会の活動活性化の推進に関する条例、これをつくるときに私も関わっていましたので、非常に思い入れがあります。このときの話し合いのことを思い出すと、やはり基本的には品川の町会・自治体は元気で優れた活動をされているというように思います。われわれの出発点は決して貧しくない、非常に良い出発点を持っているということ、まずは自信を持っていただいていいのではないかと思います。その上で、いわゆる地域の課題解決を進めていく担い手として、町会・自治会その他の地域団体あるいはNPOに頑張ってもらいたいということで、やや踏み込んだ要求をするのであれば、先ほど申しましたように、それに伴う専門性、あるいは資金的な部分など、それをもう少し考えていかなければいけません。私の乏しい経験では、最近地域包括ケアが随分推進されています。あれはなかなか良くて、少しお金が出ます。それだけではありませんけれども、そういったことに地域サイドが目を向けていって活動を推進していく、その中で単に負担が増えるというだけではなく、同時に新しいことをすれば担い手も増えると思います。だから、担い手は常にそこにどんどん負担がかかるという発想をするのではなく、新しいニーズのある活動を手がけることによって、若い世代に浸透していくという発想が必要であると思います。それが言いたいことの2番目です。

言いたいことの3番目、最後として、拠点ということについて若干申し述べたいと思います。2ページの右側のほうに、コミュニティ活動を支える拠点機能の充実ということがあります。私自身も研究者としてコミュニティカフェの運営に関わったりしているものですから、拠点というのはとりわけ思い入れが強いのですが、日本の各自治体は1970年代80年代ぐらいから、身近な集会施設を整備してきたと思います。大体それは生涯学習拠点です。ですからこれはいろいろな福祉活動などに必ずしも向いているわけではありません。例えば料理室は料理教室のためであって、食事サービスのためには使いづらいといったような問題が昔から存在しています。最近だいぶその辺も良くなっていますが、こういういろいろな種類の集会施設があっても、それはでも地域の側から見ると、一つの集

会施設であって、それを多様に使っていきたいというニーズがあるのだと思います。ですから、集会施設に雇用されている方も、そういう目で地域をコーディネートするような動きをしていく。今では、もちろん品川ではありませんが、コミュニティセンターの職員の接遇研修をやっているところがあります。接遇という問題ではなくて、地域の動きをコーディネートするというのが、コミュニティ全体に課せられた任務であると思います。そのような観点で、拠点につきましても、地域活動をコーディネートする人、そのための拠点だということに留意しながら計画をつくっていくことが必要ではないかと思います。

■ 参与

今日この数値目標がこれから決められるということで、私はこれが多分一番今後 10 年間で重要な作業になると思います。例えば、会議の数をここに書いてしまったら、会議をとにかくこなせば良いと、その会議が何の目的か関係ないというか、要するに会議を開いたからどういうことをするのかという、本当にすることが目標でなくなって、会議の数だけこなすようなことになってしまうので、ぜひこの数値目標は、いわゆるインプット・アウトプットのアウトプットではなくてアウトカム、それをしたから、ではどのようなことが実際できたのか、というところを目標に設定していただきたいと思います。今までのものを見させていただくと、これは両方混ざっています。アウトプットのものもあるし、アウトカムのものもあるので、ぜひ今回はきちんとしたものを目標立てていただきたいと思います。

それからもう一つだけ、基本的に今回の領域というのは、ソーシャルキャピタルの話だと思います。ソーシャルキャピタルの議論はいろいろありますが、そこから重要な指標を選んでくるというのが重要かと思います。活動の頻度や公表率、ボランティアの活動、友達・家族とのつながり、社会の信用度など、幾つかその要素がありますので、その辺はそれなりの知見がありますから、そういうものを使って指標にうまく当てていくということが重要かと思います。

■ 委員

地域活動に関して 2 点あります。まず 1 点目は用語の定義のことです。今回区民活動と地域活動、コミュニティ活動という言葉が出てくるのですが、これを使い分けするかどうかということ。住民登録がある人たちの活動なのか、働きに来る人、学びに来ている人たちも含めた活動なのかによって、使い分けも違うかと思いますので、その定義をされたら良いかと思います。先ほどの条例では、地域コミュニティという定義があって、個人相互のつながりを基礎とする地域社会というように定義されているので、この辺に準じてされるかどうかです。

2 点目は町会・自治会のことに関してです。これを拝見すると、問題解決の主体として町会・自治体の期待が非常に大きくなっている、これは当然そのとおりだと思います。し

かし一方、住民の方々で何でも解決できるわけではないのも事実なので、ここについては、この分野だけでないことになるのですが、公私協働で解決に取り組んでいくというところを示していかないと、何か全部住民に押し付けあってしまうのだろうかというように印象を持たれかねないと思うので、公私協働という言葉が入ると良いかと思っています。また、そのときに、地域センターを拠点にしていますので、地域センターを拠点として、という言葉が入ることも大事かと思っています。

もう一つ、その町会・自治会の活動のところで、具体的な施策で活動支援はやはり中身が大事だと思います。負担をどう軽減できるかというところが一つポイントになってくるかと思っています。新しい人に参加してもらうことがなかなか難しい中で考えられるのは、例えば企業や社会施設の社会貢献、地域貢献とどう結び付けていくのか、また利用されている方々の社会参加とどう結び付けていくのか、あるいは一般就労が難しい方々の中間就労の場として、社会との接点をつくる場として何かマッチングできないだろうか、ということだと思います。そうすると、そのマッチングの機能として、やはり地域センターや支え愛・ほっとステーションの方々が地域をつなごうとしているので、この辺がとても大事だと思います。

また、先ほどご発言があったように、防災活動をきっかけにするというのはとても重要な切り口だと思います。何をきっかけにしてつながっていくのかということなので、この活動支援の中身を充実させていけると良いかと思っています。その視点として、なぜ地域の方々に関わってもらうことが大切なのか、これは地域福祉計画の策定の中でもよく話をしてきたのですが、単に公的なサービスができないことを担ってもらうということではなく、その営みが孤独や孤立のない地域社会をつくっていく、また差別や排除のない社会をつくっていくという部分での大事さがあるので、そういったところを含めてこの区民活動の大切さを整理していただくと良いと思うところです。

■委員長

ありがとうございました。それでは後半に移りたいと思います。後半ご審議いただきたいのは、政策の柱で、都市型観光、都市景観、水とみどり、この3点です。委員の皆様から先にご意見を伺いたいと思います。

■委員

観光をテーマとして、いろいろな方と意見交換しました。その結果、ただ今申し述べるようなことを提案したいと思います。よろしくお願いします。

まず、観光というキーワードですが、横串を挿すと、今日挙げられました地域、にぎわい、活力、全ての柱を通すことになると思います。一例を挙げるならば、産業という柱も、ものづくりの場を体験させたり見せたりする産業観光という位置付けで脚光を浴びています。スポーツ観光しかり、伝統・文化、都市景観、水とみどりの柱は、観光コンテンツそ

のもので、それほど広範囲に及ぶ分野ですので、少々大胆な基本施策として提言させていただきます。

観光資源は、もの、こと、情報の3点にくくり、重点項目として掲げて、これをバランス良く推進していくということです。「もの」の部分では、魅力ある品川の文化や歴史、そして大森貝塚に代表されるような史跡・遺跡、寺社や歴史的人物のお墓、文化的歴史的価値のある構築物、旧東海道品川宿周辺、中原街道、また品川浦、目黒川、京浜運河等の水辺、これらのコンテンツの周辺環境整備やまちの景観整備を図り、品川固有の観光資源としての質の向上を目指していくということです。「こと」というところでは2点ほどあります。現在行われている地域イベントとしては、なかのぶジャズフェスティバル、大井どんたく、ねぶた、水辺では運河祭り、風流屋形船ライブ、目黒川の桜などがあります。また、品川を代表するイベントとしては、区民祭り、宿場祭り、夢さん橋等があります。また、まち歩きではお宝発見まち歩きなどのテーマごとのまち歩き、こういうことをやっています。

以上、区内で行われている主なイベントを挙げましたが、これらのイベントには多額の補助金が費やされております。これらのイベントを今一度効果検証した上で、実施するイベントについては連携を深め、地域、それから時期や季節、参加型か見物型かを精査して、イベントの空白化をなくして、来訪動機に結び付けていくように誘導し実行していきたいと思っております。

最後に「情報」です。観光をキーワードとした区内を網羅した情報集積とコンテンツの充実を図り、これからの観光のあり方を提案し、実行していきたいと思っております。個別の施策としては、観光発信拠点としての強化・充実、スマートシティ実現のための役割の受け入れ、まちめぐりなどの観光を目的とした自動運転の採用、Society5.0の受け入れをはじめ、観光政策に取り入れていくということです。

以上、雑ぱくですけれども、10年後の姿を見据えた提案として発表させていただきました。

■委員

都市景観についてです。品川には商店街や、それと一体となった住宅街、さらには閑静な住宅街があり、それがとても魅力だと思います。しかし、今これが新たに戸越公園駅周辺などの超高層再開発や都市計画道路をはじめ、その他にも、例えば60坪ぐらいの家が取り壊されると、三つか四つの分譲住宅ができるなど、ミニ開発がこうした魅力的な商店街や住宅街を壊していると思います。品川らしい都市景観を守るためにも、超高層の再開発やミニ開発への規制をはじめ、絶対高さ制限の導入や、低層の住宅街や商店街を守る方策が必要だと思います。武蔵小山などに、品川区が高さ140メートルをスカイラインと設定して、高層マンションを区が誘導するのは、武蔵小山らしい都市景観を壊すものだと思います。こうした高層化への誘導はやめて、住民参加のまちづくりへ抜本的な転換が必要だと思います。

■委員

都市型観光のところで二つ意見を述べます。

一つ目は、品川の観光は何かと聞きますと、品川区は水辺の活用と答えます。この中に、品川観光大使、サンリオさんのシナモロール、これはこれで魅力もあって人気もあって素晴らしいことだと思います。これは継続の必要があると思いますが、これと合わせて、観光大使は複数あっても良いと思います。品川の観光イコール水辺という品川区の公表がありますので、品川の一番の観光は水辺という、品川区はこれを思い切り打ち出していますので、品川観光イコール水辺イコール大使というようなことで、品川観光大使としては、水辺をイメージしたものをぜひ取り上げていただきたいと思います。人材の活用でも良いと思いますので、こういったところは複数、幾つあっても良いと思いますので、それが一つの意見です。

もう一つの意見は、この6ページの最初にあります魅力ある水辺を活用した観光とありますけれども、水とみどりのところと少し重なり、関連性もありますが、品川区内ですと舟運の拡充等がもちろんこれからの時代求められてきます。それと合わせて桜を、昨年品川区は目黒川桜千本計画をつくりまして、またさらに桜を増やす取り組みをしていますけれども、例えば先ほど数値目標を活かすという素晴らしいご意見がありました。私もそう思いまして、例えばこの目黒川の桜の魅力を取り組みますというその打ち出しはとてもよく分かるのですが、例えば中目黒に負けないようなそういったものを目指す、それによっては数値目標が大事だと思います。それはただ競い合うだけではなく、時には連携という形も必要かと思しますので、お隣の目黒区さんや大田区さん、港区さん、そういった水辺の活用を連携ということも大事だと思いますが、品川区としてはやはり数値目標を持って、桜一つを取り上げれば、中目黒に負けないようなそういった目標を持っていただきたいです。これは一つの事例なので、全てに通じることだと思います。

■委員長

他にございませんか。それでは参与の先生方で、これらの項目についてご意見あれば承りたいと思います。よろしくお願いします。

■参与

質問です。水とみどりのところで、現状と課題の最後の二つの丸は、こういう要望があるといったようなことや、こういう求められるというものが多様化しているというのがあるのですが、右側のページで、主な取り組みの中のどれにこれが対応しているのか分からないです。一方で、日常的な公園の維持管理を担う自主的な地域のボランティア活動を支援する、これも私品川のこの種のことをよく知らないのですが、どのようなことか。よく他の自治体では、町会・自治会に公園緑化保護会などという名前を付けて、助成金を出して清

掃をやってもらうなどということがよくやられています、具体的にどうしているのか。

■事務局

まず、屋敷林の減少のほうの絡みですが、右のページの2番の区のみどりを増やす、の部分ですけれども、保存樹木や樹林の保全を行い、ということで、こうした屋敷林等の緑を保全していきたいというようなことで記載をしているものです。

もう一つ、多様な維持管理あるいは公園づくりの部分ですけれども、今さまざまな形で区内の公園については維持管理をしています。一つは、私どもも清掃等を行っているところですが、地域の方々にボランティア活動ということで、緑と花のボランティアということで、花を植えていただいたり、あるいは清掃してもらっている部分もあります。また、公園の中でさまざまな活動をしたいという方もいらっしゃいますので、そうした方々といろいろお話し合いをする中で、例えば泥んこ遊びをしたいなど、通常公園の中ではあまりできない遊び方についても、そうした団体の方々と連携をする形で、公園の維持管理を進めているところです。型にはめるだけでは、公園の管理はないと思っていますので、いろいろな方のご意見を伺いながら、より良い維持管理、それから区民の皆さんが楽しんでいただける公園づくりを進めていきたいと考えております。

■参与

お答えありがとうございました。今、子どもの外遊びの支援のような話題がありましたが、私もプレイパークというものに少しだけ関わっているので思い入れがあります。もしそういう動きが区民の中であって、行政としてもそれを支援したいということであれば、何かきっかけになるようなことを書いておいたほうが良いと感じたところです。プレイパークはやろうとすると区民の側も大変で、行政も大変だと思います。もしある程度の同意があるのであれば、少し書いておいていただいたほうが良いかと思います。

■委員長

それでは、全体を通じて、これは言っておきたいというご意見があればどうぞ。

■委員

質問ですが、都市型観光の6ページで、先ほどご説明の中に品川らしさと書いてあります。この品川らしさは、具体的にはどういうことを表現しているのか、喧々諤々の議論でありまして、事務局ではどうしてお考えかお尋ねしたいです。

■事務局

品川らしさ、これは都市型観光という名前を出してございますけれども、やはり品川区

は、浅草やスカイツリーなど、そういう観光の膨大な集客力のある施設はございません。しかし、都市型観光の都市型というものは、都市自体を観光として捉える考え方でございます。そして品川区には、豊かな水辺があります。また、歴史豊かな寺社仏閣、伝統のお祭り、そういうものもたくさんあります。観光客の方が来て、まちを歩いて楽しむ、また元気のある商店街が幾つもあって、そこでショッピングをしながら楽しむ、そういうものが品川らしさとして捉えています。

■委員

私も質問ですが、水とみどりのところで思ったのですが、今回違いますけれども、防災の話で、直近で品川区のハザードマップが出たと思います。結構インパクトがありまして、水と親しむというのとある意味では反するところがあるので、その辺は何かお考えがあるのでしょうか。他では川幅を広げるなど、いろいろ見たことがあります、その辺は何かありますか。

■事務局

私どものような品川区の状況の中で、今、川幅を広げるなど、そういったようなことは、なかなか難しいというのが現状です。今回、本日は「地域」という区分の中でのお話ですけれども、「安全」の分野の中で、そういった区としてのさまざまな安全・安心のための水防体制など、しっかりと記載をしていきたいと考えています。

■委員

伝統・文化のところですが、意見としてまとまっているわけではないですが、私自身、大井囃子保存会に小学校2年生か3年生の小さい頃から関わっておりまして、鹿嶋神社に奉納するものですが、やはり子どもたちが気軽にそういうお囃子に参加をしたりすることにあって、結構発表の場が大事になってきます。もちろんお祭りのときに発表するというのも大事ですが、最近では福祉施設でお囃子や獅子舞やひょっこなどを発表すると、お年寄りもすごく明るく元気な顔になったりする中で、子どもたちも自分たちがやることの意味や役割など、また次の時代にも伝えていきたいという思いが強まってくるのかと思います。そういう地域の中で、自然な形で子どもたちにつながっていく現状をよく把握していただいて、新たな支援の仕組みや活動がPRできるような仕組みができると、区内さまざまな神社や仏閣があって、それぞれお囃子やお祭りやおみこしがありますので、ぜひそこにもしっかり目を向けていただきたいと思います。

■委員長

積極的な、提案的なご意見をたくさんいただき、ありがとうございました。私からも一言申し上げたいと思います。

2ページの区民活動のところをめぐって、縦割りではなく、ということと、それから地域活動、あるいはその他の分野にまたがる点については、それなりの表記をするべきではないかというご意見が複数出されたかと思います。全体に世界的な傾向からいっても、近年いわゆる貧困等の分野でよく使われていたアウトリーチという概念が拡大されて、いろいろな分野に使われるようになったというのが、この10年前の長期計画のときに比べて、この10年間の変化かと思います。アウトリーチというのは地域に溶け込んでいく、担当者や行政、市民活動、NPOなどが地域に入っていくということで、最初は貧困問題等で、困窮者が声を上げられないので、こちらから助けを必要とする人に対して入っていくというような概念で2000年頃には捉えられていたのですが、それがその後、防犯や防災、治安、あるいは例えば児童虐待などでも、こちらからアプローチすることが必要だという考え方になりました。ある意味高齢者の世界では、地域包括ケアシステムということで先ほど話も出ましたけれども、地域でそういったシステムを構築していくという、自治体単位ではなく、ある意味、特に日本の場合は自治体が大きくなり過ぎた、人口的にいうと品川もどんどん大きくなっていますが、そういったところもあって、地域に入って溶け込んでいくというアウトリーチという考え方がある意味広がってきたかと思います。そういった意味では、10年前の基本計画に比べて、今回の基本計画では大きな変化でもあるので、そういった点を区民活動というところを中心に、どう表現していくかということでは工夫が必要だと思いますけれども、それは一つの今日出た議論で共通の課題、ご意見として出てきた話かと思います。

それからもう一つ、生涯学習・スポーツの中で、書き出しは今回は10年後の目指す姿で、オリンピックのレガシーというところで始まっているわけなので、そういう中で10年後の取り組みの1番の多様な活動を支援する、それが一番大事なことだというお話も出ました。年齢や障害の有無にかかわらず、これは年齢と障害だけではないかと思いますが、そういったいろいろな障害の有無にかかわらず、これは年齢や障害等の有無にかかわらずだと思いますけれども、誰もが親しめる機会というのが一番大事な理念だと思います。その割には、具体的な施策が生涯学習とスポーツについては情報提供しかないのか、これはある意味編集の問題として、2番目の活性化の推進のほうで拠点づくりなど、これもご議論がありましたけれども、そういったものが入っているので、これは1番多様な活動を支援する、2番生涯学習・スポーツによるまちの活性化を推進する、という展開であると、まちの活性化に重点があるように捉えられるので、実はそうではないと思うので、スポーツの拠点ネットワークづくり等を、情報提供だけではなく、1番と編集でどう工夫するかという点が、ご指摘を受けて一つの宿題になったかと思います。

それから、これもやはりご指摘がありましたけれども、3番の生涯学習・スポーツ環境の充実と、4番の図書館機能の充実と、これについて、特に3番の最初の丸が改修等を計画的に行いますということでは止まってしまっているのか、ある意味これは「みる」「する」のほうについてもご指摘がありましたけれども、これもやはり10年前の考え方に比べて、

これからの考え方というのは、生涯学習やスポーツ、図書館、その他の施設について、それぞれ縦割りで作っていくのではなくて、例えば図書館などもコンサートホールと融合させるという議論をよくするのですが、いわゆる複合施設ではなくて融合施設という議論をよくします。地域につくる施設というのは多機能でつくる、先ほど生涯学習の調理室とそれを福祉に使う話がありましたけれども、そういう自治体がつくる施設が多機能化していくというのは、これからの傾向だと思います。そういったことを、表現はこれまた工夫が必要だと思いますが、そういった表現を、新しい今後10年を目指した姿としては工夫していく必要があるのだと思います。

それから4ページの伝統・文化のところでは、これもご指摘がありましたけれども、歴史の話が2番、10年後の姿の2番に入っていないので、文化の中に、特に伝統文化とここはつなげているので、表題は伝統・文化ですけれども、2番のほうでは伝統・文化の継承を支援するとまとめているので、歴史も入るのだとは思いますがけれども、品川の歴史についての強いご意見がありました。例えば歴史と伝統・文化の継承、あるいはまた支援だけではないというご意見がありましたけれども、継承を促進・支援するなど、そういったこれもやはり表現の問題によって広げていくことが重要なのかと思います。

それから5ページの産業のところでは、これは品川だけの傾向ではありませんが、やはり商店街の魅力というのは、チェーン店ばかりで構成されるものでないところが、特に区民にとってもそうであるし、他から来た人にとってもやはり個性的な商店があるというのは日本の商店街の魅力で、海外にはない魅力だと思います。それは、品川は商店街でもずっとリードしてきたし、今でもかなり盛んな、栄えている商店街があるので、それをやはり商店街の世界でも、おっしゃるとおり新規参入を促進していく。高齢化して撤退した後にも、またすぐ魅力的な個人の商店が開店していくという品川であってほしいというのが共通の願いだと思います。その辺をこの5ページの最後の魅力ある拠点の育成支援のところを、参入支援等も含めて、あるいは参入促進等も含めて、表現をもう少し膨らましたほうがいいのかというのが、これもやはり宿題だった提案だと思います。

いちいち申し上げることはないで、それぞれについて、個々には申し上げませんが、その他の項目でも、出たご意見がばらばらではなくて、かなり共通の視点からの、同じ角度からのご意見というのがありましたので、その辺は事務局のほうは大変でしょうけれども、ぜひ受けとめていただいて、パブコメに出すまでにはそういったところを工夫していただければと思いますので、どうぞよろしく申し上げます。

5. その他

*事務局より資料4について説明

6. 閉会

以上